

## 治安・安全情報（テロ対策 Q&A）

【メールマガジン 2020 年 8 月号から抜粋】

豪州でテロに遭うことはなく、テロへの対策はしなくてもよいとお考えではありませんか。そんなことはありません。豪州においてもテロの脅威は間違いなく存在します。以下、豪州におけるテロの危険性と皆さんにとっていただきたい対策等について Q&A 方式でまとめましたので、参考にいただければ幸いです。

Q 豪州でテロのリスクはあるの。

A 豪州政府は、テロの脅威度について 5 段階で発表しており、現在の脅威度は上から 3 番目の「起こりそうである（PROBABLE）」としています。

Q 豪州のテロ情勢について教えて。

A イスラム過激派組織である「アル・カーイダ（AQ）」や「イスラム国（ISIL）」などは、インターネット等のメディアを効果的に活用してジハード思想を伝播しており、テロ組織と関わりのない個人がこれにより過激化してテロを起こすことが懸念されています。

さらに、ISIL の戦闘員には、豪州人も含まれていることが確認されており、彼らが帰国して国内でテロを起こす可能性も指摘されています。

また、豪州の情報機関 ASIO は、国内各地の住宅地で極右派グループが定期的に会合を開いてナチ旗に敬礼し、武器点検や戦闘訓練、ヘイト・イデオロギー研修を行うなど、豪州での極右派の脅威が大きくなっているとしています。

Q シドニーでどのようなテロが発生しているの。

A シドニーでの主なテロ事件の発生は以下が挙げられます。

○人質立てこもり事件

2014 年 12 月、マーティンプレイスのリンツカフェにおいて、イラン人の男が人質 18 人をとって立てこもった。警察が突入し犯人を射殺したが、人質 2 人が犠牲となった。

○警察職員殺害事件

2015 年 10 月、パラマタの NSW 州警察本部前において、イラン出身の少年が警察職員を射殺。少年はその場で警察官によって射殺された。

シドニー以外では、2018 年にはメルボルンで 30 歳の男が市民 3 人を刃物で刺し 1 人を死亡させるなどの 2 件のテロ事件が発生しています。

Q シドニーのテロは昔の話であり、現在においてテロの危険性はないのでは。

A ここ数年、シドニーでテロ事件の発生はありませんが、昨年 7 月にはシドニー中心部の警察署や国防施設などを襲撃する大規模テロ計画を立て、武器や爆発物を調達していたと

してレバノン出身の男ら 3 名が逮捕されるなど、計画段階で検挙されている事案は毎年発生しています。豪州の治安機関は、検挙されたこれらテロ計画はあくまでも氷山の一角であるとして、現在もテロ関連情報の収集に注力しています。

また、イスラム過激派組織は、現在の新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を「神の罰」と称し、欧米諸国が麻痺と恐怖に襲われていることにつけ込んで攻撃を仕掛けるよう呼びかけているほか、新型コロナウイルスの発生により、政治・社会・経済に対する不満や不安を募らせた市民が過激主義者に共感し、テロを起こすリスクも指摘されています。

Q テロ対策ってどうすればいいの。

A 以下の対策をお願いします。

○最新の関連情報の入手に努める

・総領事館への在留届の提出または、「たびレジ」への登録により、渡航先の最新安全情報や、緊急時の総領事館からの連絡を受け取ることができます。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/> (たびレジ登録フォーム)

・外務省海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

○テロ・誘拐等の標的となりやすい以下の場所(※)を訪れる際には周囲の状況に注意を払い、不審な人物や状況を察知したら速やかにその場を離れる等、安全確保に十分注意を払う

(※) リゾート施設、各種イベント会場、観光施設、レストラン、ホテル、ショッピングモール、スーパーマーケット、劇場、コンサート会場等人が多く集まる施設、教会・モスク等宗教関係施設、公共交通機関、政府関連施設(特に軍、警察、治安関係施設)等

○海外渡航など自宅を離れる場合、家族や友人、職場等に日程や渡航先での連絡先を伝えておく